



66th CRC Seminar

小松 節子 氏
独) 農研機構・作物研究所

今回の CRC セミナーは作物研究所の小松節子先生に講演をお願いしました。小松先生は植物プロテオーム研究の第一人者で、イネやダイズをはじめとする多種の植物材料を使って、基礎から育種的应用までを見据えたプロテオーム研究を展開しています。ご興味のある多くの皆様の参加をお待ちしています。

耐湿性ダイズ作出のための プロテオーム解析技術の応用

Soybean proteomics: its application to analysis
of mechanism of flooding stress

時間：2012 年 5 月 16 日（水）16:00～17:30

場所：総合教育研究棟（生命系）1 階 遠隔講義室

我が国の水田転換畑におけるダイズの栽培では、湿害が発生し作物の成長や生産性に深刻な影響を及ぼす。ダイズゲノムの塩基配列情報は公開されたが、ダイズはゲノム上遺伝子重複が多く、かつ耐湿性は病気にも起因する複雑形質であるため、多数の遺伝子の中から鍵となる因子を決定することは困難である。そこで本研究では耐湿性ダイズの作出を目指して、プロテオーム解析技術を応用した。プロテオーム解析技術と生化学・分子生物学的手法を組み合わせることにより、解糖・嫌気代謝、ホルモン合成・情報伝達、ユビキチン・プロテアソーム系タンパク質分解等が関与していることが明らかになった。さらに、各種電気泳動を基盤にしたプロテオーム解析技術とゲルフリープロテオーム解析技術を用いて、細胞内局在性を示すタンパク質群を解析することにより、ダイズ出芽期の湿害発生機構に新たな知見を加えることができたので紹介する。

（問合先：上村 松生：uemura@iwate-u.ac.jp）